

令和4年度和歌山県文化奨励賞

いわた なおき
岩田 直樹

住 所 茨城県つくば市
出身地 和歌山県紀の川市
生 年 平成7年

◎ 業績及び経歴

平成7年、和歌山市に生まれ、幼少期を那賀郡打田町（現紀の川市）で過ごす。県立和歌山ろう学校高等部を卒業後、デザイナーを志し平成30年筑波技術大学総合デザイン学科を卒業。

幼少期から描画やものづくりなどクリエイティブな活動に親しんできた氏は、ろう学校在学中から映像作品を制作。高等部2年生時に制作した作品がローマ国際ろう映画祭「CINEDEAF」学校部門で特別賞「最優秀短編アニメーション賞」を受賞する。

大学在学中は、地域活動に率先して参加し、1万人規模の人が集う地域イベント「つくばクラフトピアフェスト」のデザイン等を手がける。卒業後は、広告会社の社員として勤務する一方、「ダイナモデザイン」の屋号でフリーランスデザイナーとして活動。

令和3年デジタル庁が「デジタルの日」を象徴するオリジナルロゴ作成者を公募した際は、候補者として世界的な映画監督や日本を代表する漫画家等が名を連ねる中、得票数1位を獲得。ロゴ作成者に決定された。そのデザインは、スマホやパソコンの画面をイメージさせる四角形をデジタルの日の3つの行動理念を表す3本のラインで形成しつつ、あえて隙間を作ることで、壁を作らず誰も取り残さないことを表現するなど、多くの想いがシンプルなデザインに凝縮された親しみやすいものとなっている。

生まれつき聴覚に障害があり、人との関わりに辛さを感じる時期もありながらもそれを乗り越え、逆に耳が聴こえないことで視覚的情報のみで生きてきたからこそ、デザインを行う上で一番大切な「わかりやすさ」に敏感でいられる、という障害をデザイナーとしての強みに換えた氏の活躍は、個性を活かし合う社会のロールモデルといえる。

「障害に関係なく楽しめる社会」を実現するため、クリエイティブな力で人や社会を変えていくグラフィックデザイナーとしての氏の躍動は目覚ましく、今後更なる活躍が期待される。

■ 現 在

・グラフィックデザイナー

◆ 主な表彰歴等

平成24年 第8回さかの聴覚障害者映像祭
最優秀賞
平成26年 ローマ国際ろう映画祭「CINEDEAF」学校部門特別賞